

六、劣等兒も同様男女、年級によりて差違がない。

而して此の二つの知識は其發育と相平行して居る。換言すれば「色彩」の知識に勝れたるものは「貨幣」にも勝れ、「貨幣」に劣りたるものは「色彩」にも劣つて居る。

四、附言

以上は余が坂出幼稚園兒童に對して爲した成績である。余はこれを以て直ちには全兒童の夫れに應用せんとする程旨斷でないが。少なくとも一地方の兒童の「貨幣」に、色彩に對する知識は此の如きものと云ひ得ると思ふ。特に兩者が相並行し、色彩に對する知識が三田谷氏の八歳の「テスト」(智力検査箱)に相應するが如きは、偶然の一致なりとは云へ注意に値すると思ふ、敢て先輩諸彦の叱正を俟つ所以である。

終りに此調査を爲すに當り多大の便宜を與へられたる園長宮崎熊三郎氏並に野口、喜田、松野の三

保母に對して感謝の意を表す。

(兒童研究第二十一卷第五號)

各園情勢

彦根幼稚園

○沿革

明治二十五年五月一日私立東幼稚園を大字五番町に創設し兒童の保育をなす。

明治三十年十月一日私立西幼稚園を大字下魚屋町に創設し幼兒の保育をなす。

明治四十年七月十四日共に私立を廢し町立となる、大正二年四月十二日東西幼稚園を廢し之を併合して彦根幼稚園となる。

この間一盛一衰ありと雖も微々として振はざしが四十年以來は保育研究會幼稚教育講習會等に出席して大家の指導に従ひ保母の盡瘁により日に月に隆盛の運に赴き、漸く今日の域に達するを得た

り。

大正五年度末保育を終了し小學校に入學せしもの。

男八十七名、女七十名合計百五十七名。

創立以來保育終了せしもの男千二百八十六名、女千百九十五名合計二千四百八十一名。

現今本園に於ては有資格保姆四名、保姆心得二名、高等女學校卒業のもの園婢二名にて幼兒男百三十名、女百三十三名合計二百六十三名收容せり。

之を幼兒の尤も好める色を以て六組に區別し第一を菊とし赤を配す、第二を牡丹とし牡丹色を配す、第三を百合とし樺色を配す、第四を櫻とし櫻色を配す、第五を山吹とし黄色を配す、第六を松とし綠色を配す、菊の組には年少幼兒を取り、牡丹、百合、櫻、山吹松の五組は翌年四月入學の期に達するものを取る、但し各保育室の入口に彩色したる繪畫の扁額を掲げたり。

○保育要旨一斑

幼兒の心を圓滿に發達せしめんが爲めに、園内保育園外保育を行ふ、園内保育には會集、修身、庶物、唱歌、手技、遊戲等を季節に應じて之を授けて、道徳的に導き園外保育にては専ら身體を健全に發達せしめ幼兒の幸福を増進せしむ。

當園に於ては春秋二回の遠足を行ひ、毎月一回乃至二回の園外保育を行ふ、然しながら遠足といふも道程の遠近によるに非ず、晝時間の長短と服装の如何によりて命じたるまでにて、實は園外保育、野外保育と大同小異なるものなり。